

令和5年度 第3回 首里城公園管理体制構築検討委員会 議事概要版

日時：令和6年2月29日（木）10時～12時

場所：沖縄県教職員共済会館八汐荘 屋良ホール

※以下は、意見内容を踏まえて分類・整理しているため、発言順ではない部分もある。

1. 防災設備の運用体制(資料2)

- 同時滞在者数に関連して、今後、正殿は（実物資料を見せる）展示鑑賞から空間体験の利用に変わっていくため、滞在時間が短くなるのではないか。出入口が少なく、滞留しやすい空間構造の施設もあるが、滞留しにくい施設の使い方をしていくことも重要な気がした。（委員）
 - 素屋根見学エリアでは、人が滞留しないような工夫をしている。そのなかで効果的なものについては、正殿完成時の管理手法に取り入れていきたい。（沖縄県）
- 資料2のp4、5で、建物を除く国営有料区域スペース2,500㎡をもとに群衆密度を設定していることについて、全体を平面的に捉えて収容人数を決めているが、それで大丈夫なのか。場所ごとの性格も見ながら収容人数をもう一度精査する必要がある。また、p4の建物表には正殿、北殿、南殿など全部で7か所の収容人数を決めているが、二階御殿や奥書院は入っていないがよいのか。（委員）
- 資料2のp4の建物表は首里城公園消防計画を根拠としているようだが、有効面積は全体の床面積からユーティリティなどを外して計算しているか等の精査も必要である。（委員長）
 - 建物は段階的に整備されるため、開園区域の状況等を踏まえて今後算定すべきと考えている。（沖縄県）
- 資料2のp9で正殿工事のフェーズ⑤⑥で想定される課題が書かれているが、実際はフェーズ⑥以降の内容も書かれている。フェーズ⑤、フェーズ⑥、フェーズ⑥（正殿完成）以降の3段階に分けて整理したほうが良い。（協力委員）
 - 修正する。（沖縄県）【公開資料は修正反映済】

2. 防災設備等の整備について(資料3)

- 管理センターの増築・改修にあたって、舗装はよく考えてほしい。歩行者優先的なところなので、通路は単純にしないで広場的な空間となるようにしたほうが良い。（委員長）
- 設備関係のインシヤルコストとランニングコストの関係性をきちんと整理しておいたほうが良い。何年ぐらいで陳腐化するのかを予測し、点検・更新を計画的にしないとイケない。管理センターだけでもモデルをつくっておくといいと思う。（委員長）
- 資料3のp18にある監視カメラの有線化について、今は無線であっても5Gになり、通信状況もかなり良くなっている。また、無線だとイベント等で臨時的に活用できるのではないか。どちらか一方ではなくランニングコストも含めて有線化がベストなのかを検討してもらいたい。（委員）

- 資料3の p19「監視カメラの機能強化案」は首里城公園全体が完成した時期を想定したもののか。奥書院から抜ける管理用通路は、完成後も消防隊の進入経路になりそうだが、どういう使われ方をするのか、監視カメラ、放送スピーカー等はつけないのか、非常時の避難経路になることはないのか、確認したい。(委員)
 - ▶ 県営区域については令和7年度に整備を予定しており、令和8年度の正殿単体完成時を想定している。(沖縄県)
 - ▶ 本委員会資料は県営区域のカメラ配置を示している。ご指摘のあった箇所は、国営区域となりますので、県営区域と連動させて死角がないように配置を計画していく。(協力委員)
- これだけ警戒範囲が広いと、各カメラが監視する範囲(場所)、不審発見時の初動対応をセットで考えておかないと、特に放火の場合は危ない。大勢で管理しているわけではないので、1か所に集中するとほかの場所で生じる危険を見逃す可能性が高い。(委員)

3. 管理運営の仕組みの見直し(資料4)

- 防災業務の切り分けについては縦にスパッと割る必要はない。例えば未然防止については、計画立案や教育訓練などを防災業務で行い、実際の現場での初動対応等は指定管理者で行う切り分け方もあると思う。柔軟に考えてほしい。(委員)
 - ▶ 阿波連委員も言っていたように切り分けることにこだわり過ぎではないか。仕様書で細かく規定して、提案を見て業者選定をしていく方法もあるのではないか。(委員)
- 業務を切り分けるときの責任分担と併せて、連携などを踏まえてどう分割すればいいか、もしくは分割するときどちらかが問題ないように支え合える工夫等を考える必要がある。(協力委員)
- 二度と首里城で火災を起こさないためには、防災業務に責任を持って行う体制をつくるべきとこれまで議論してきた。今回の報告資料を見て、ここまで県が変わってきたかと本当に感銘を受けている。指定管理者制度をメインに据えながら、防災業務を切り出すという発想で進めていること自体はすごくいいこと。これから議論すべきことも多いと思うが、前例の有無ではなく、先進モデルとして是非進めてほしい。(委員)
- 指定管理者制度とは、包括的に代行することができる制度だが、全部一括りにやるわけには行かないというのが、再発防止検討委員会から議論の中心だった。民間活力を使うこともいいが、必ずしも防災業務が優れた業者が受注するとは限らない。そのためにこれだけ時間をかけて議論してきた。委員会では、前例主義でやるのではなく、先進モデルとして進めていく議論を行っているということを県庁内部で合意形成してもらいたい。(委員長)
- ルールや規則だけでやるのではなく、ミッションドライブである。委員会がどんな使命を持って、このことを決めようとしているのかを強く訴えてもらったら、理解は得られると思う。首里城公園は非常に特殊な公園である。国営公園の大事な部分の管理許可をもらって沖縄県がやると言っているわけだから、ミッションとしてきちんとやらなくては行けない。(委員長)
- 大災害時代なので、災害後、どうするかは、今後、色んな自治体が考えなければいけない。

災禍を転機とするようなことが非常に大事だと思う。(委員長)

以上